

インターバンクの声（2017 年 6 月 23 日）

先週の中盤には 108 円台まで円高・ドル安が進む場面もあった円相場だが、今週は今日一日残してはいるものの、ここまでのところ 110 円 70 銭台から 111 円 70 銭台まで約 1 円のレンジの中での値動きに留まっている。

先週は円相場と同じように取引レンジを広げる場面もあったユーロ相場も、今週はやはり 100 ポイントほどの値幅しかない。週の序盤に大きく動いた債券相場も、水曜日のニューヨーク市場の昼過ぎからは円相場以上に静かになってしまった。週初は複数の FRB 高官の発言に注目しながら、原油価格や各国の株価動向を見て取引を進めてきたが、毎日同じ材料では反応薄になるのも仕方ない。先週末の米住宅関連指標の悪化から気になっていた今週の米住宅関連指標だったが、予想以上に良好な結果となっており、指標も来週の米 GDP や個人消費の発表を待たなければならぬのかも知れない。109 円～112 円のレンジは簡単に壊れないとの声も多いが、来週は海外勢にとっては今年の折り返し時期に差し掛かる。半期末と四半期末が重なるタイミングは金利が急に動き出すこともよくある。為替にも影響するので要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。